

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第143号 平成31年1月22日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

(主な内容)

・平成30年度学力向上策ヒアリングを終えて



平成30年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会
学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を8月下旬から9月中旬にかけて実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はもとより主幹教諭、教務や研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

本稿では江別市の平成30年度全国学力・学習状況調査の結果、江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各小・中学校の特色ある学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載しています。

1 平成30年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果

[平均正答率:単位 (%)]

教 科	小 学 校					中 学 校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
江別市	71.0	53.0	63.0	49.0	59.0	78.0	63.0	68.0	49.0	69.0
北海道	70.0	53.0	62.0	49.0	59.0	77.0	61.0	65.0	46.0	67.0
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

<教科に関する調査結果>

平均正答率は、小学校では、国語 A は全国を上回り、国語 B、算数 A・B、理科は、全国をやや下回っています。中学校では、全ての教科で全国を上回っています。

<質問紙調査に関する結果の概要>

- 放課後に、「家で勉強や読書をしている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。また、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりしている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
- パソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は、全国平均を大きく上回り、ICT（情報通信技術）を活用した授業が積極的に行われています。

2 調査結果から見られる課題の改善のために

(平成30年度「江別市学校改善支援プラン」より)

- 全国学力・学習状況調査を活用した、継続的な検証改善（PDCA）サイクルを確立し、児童生徒一人一人の学習状況の改善のため、学校がチームとして学力向上の取り組みを継続して推進していく必要があります。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善による学習活動の質的な向上、「カリキュラム・マネジメント」の確立、ICT 機器やデジタル教科書の効果的な活用、家庭学習の習慣化、放課後や長期休業期間中等における補足的な学習サポートを

継続する必要があります。

- 児童生徒は落ち着いて授業に臨んでいます。望ましい生活リズムの確立や授業と宿題を関連付けた家庭学習の定着に向け、学校と家庭が緊密に連携した取り組みを継続する必要があります。
- 児童生徒質問紙で、「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに、全国と同様ですが、引き続き教育活動全体を通じて、自己肯定感、自己有用感を高める教育を充実する必要があります。
- 中学校区内の小中学校間で、学校改善プランや学力調査等の結果、学習規律や家庭学習の習慣化など、児童生徒の学習状況について情報を共有し、また、指導内容の系統性や関連性を踏まえ、重点的に取り組む指導内容を明らかにして、学力向上に向けた小・中連携を一層推進する必要があります。

3 特色ある学力向上の取組

(1) 学校全体での組織的な取組

- 全国学力調査や標準学力検査の結果分析を行い、具体的な改善策を定め、組織的に学力向上の取組を進めています。研究テーマに学力向上を位置づけ、授業改善や学習規律の徹底、学習習慣の定着等に学校ぐるみで取り組んでいる学校が増えています。

(2) ICT 機器や指導用デジタル教科書の効果的な活用

- ほとんどの学校で、ICT 機器が日常的に活用されています。指導の効果を一層高めるためにも、ICT 機器やデジタル教科書の積極的な活用をお願いします。
- 教室内の ICT 機器の設置位置を統一したり、スクリーンにホワイトボードを利用したり、各教室の壁に規格を統一して自作スクリーンを常設するなど活用しやすい環境づくりが進んでいます。
- 「ICT 通信プリウス」で授業での ICT 機器の実践的な活用を紹介していますので、ご参照ください。

(3) 学習規律

- 各小中学校では、学習規律や礼儀正しさについて、継続的に丁寧に指導されています。学習の約束を掲示・配布し、ラミネートにして全校生徒に配布している学校もあります。

(4) ノート指導と板書

- 学年の発達段階に応じた使い方や「課題」、「まとめ」を決められた色で囲む、「考え」を書くスペースを設けるなど、学校全体で統一したノート指導を行う学校が増えています。
- ノート指導につながる「板書」を重視し、1時間の学習の流れや学習内容が一目でわかる構造的な板書にするため、指導案とともに板書案について校内研修に位置づけている学校もあります。

(5) 「主体的・対話的で深い学び」

- 自分の考えをもち、相手や目的を意識して情報を収集して表現するために、ペアやグループによる話し合いや交流を積極的に取り入れた授業改善の継続が大切です。
- 調べたことや考えたこと、要約など、目的に応じて字数の制限や条件に基づいて書くことができるよう、国語科をはじめ他の教科において書く活動の取り組みを進めている学校もあります。

(6) 家庭学習の習慣化

- 全国学力調査の結果から、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回っています。学習内容の確実な定着のために、家庭における学習の習慣化に向けて、ほとんどの学校が週末も含めて計画的に宿題を出し、週明けに確認テストを行っている学校もあります。

(7) 小・中学校の連携

- 外国語活動・英語科での小中連携の取組例（江別第二小学校・江別第二中学校の実践より）
 - ①9年間を見通したクラスルーム・イングリッシュ（教室英語）の共有
 - ②CAN-DOリスト調査用紙の活用による実態把握・指導計画の改善
 - ③9年間で身につけさせたい会話表現の選定
 - ④NRT、全国学力学習状況調査英語予備問題の分析と授業改善策の小中交流
 - ⑤英語授業における普通学級で発達の特徴のある生徒への指導方法の連携
- 全ての中学校区で推進会議を立ち上げ小・中連携を推進しています。義務教育9年間の指導内容の系統性や関連性を踏まえた学力向上の取組をさらに充実していただくようお願いいたします。